

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	【国語】文中で主語と述語の関係を正しく捉える力を伸ばすために、文脈を手がかりにして、主語が省略されている場合でも適切に読み取れるようにしたい。また、自分で文を書くときには、主語と述語のつながりを意識し、読み手にとって分かりやすい文を作ることを中心とする。これにより、文章の理解力と表現力の両方を高めていく。【算数】小数や分数の減法をより正確に行うために、通分をスムーズにできるように練習を重ねたい。また、計算だけでなく、文章問題の中でも小数や分数の減法を正しく使えるように、数量の関係を整理しながら解く習慣を身につける。これにより、計算力だけでなく、問題解決力も向上させたい。
思考・判断・表現	【国語】話を聞くときに、内容だけでなく、話し手がどのような意図や目的で話しているのかを、キーワードや表現からより正確に読み取れるようにしたい。また、自分の考えをまとめる際には、理由や根拠を明確にして説明できるようにすることで、相手に伝わりやすい意見をつくる力を高めていきたい。【算数】二つの数量の関係をより正確に捉えるために、図や表を使って状況を視覚的に整理する習慣を身につけたい。また、複雑な文章問題でも数量のつながりを正しく読み取り、適切な式に表せるよう力を伸ばしていくことで、問題解決の見通しを立てる力を高めていく。これらの取り組みを継続し、基礎・基本の定着をさらに確かなものにしていきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎・基本の定着が十分でなく、個に応じた学習の進め方について学校と家庭との間で明確なイメージがもてていない。</p> <p><指導上の課題> 苦手な教科・領域については、児童の学習意欲を引き出すことが難しい。反復や習熟の時間、振り返りの時間が十分に確保されていない。</p>	⇒ 朝の学習タイムの有効活用 「家庭学習の手引き」 毎時間の学習ルーティンの確立 「ドリルパーク」などICTの活用
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 苦手意識から、自ら考え発表する意欲がもてていない。理由や根拠を明らかにして、自分の考えを表現することに課題がある。</p> <p><指導上の課題> 児童が意欲をもてる学習課題の設定が十分でない。</p>	⇒ 読書や自然体験を土台とし、オウリングプラスなどを活用した協働的な学びから、自分なりの思いや考えをもたせられるようにする。 答えを求めるだけでなく、「なぜ」そうなるか考える機会を設ける。

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	学校課題研究として「基礎・基本の定着」を掲げ、校内での研究授業や授業外での定着方法の検討を進め、全校で取り組んでいく方針とした。日々の授業では、100マス計算や漢字練習を学習ルーティンとして取り入れ、自然に集中できる習慣づくりが進んだ。また、タブレット学習を「ドリルパーク」に一本化したことで、児童が意欲的に学習に取り組む姿が見られ、基礎的な力の定着と主体的な学びの促進につながっている。
思考・判断・表現	B	教科担任制のメリットを生かし、各教員が担当教科でカリキュラム・マネジメントを進め、児童が自分の考えを発する機会を増やしてきて、また、読書や自然体験を学びの土台とし、オウリングプラスを活用した協働的な学習を行うことで、自分なりの思いや考えをもつ姿が育っている。読書習慣の定着を図るために図書室を積極的に利用した結果、高学年の貸し出し冊数は昨年度の2倍となり、読書活動の広がりが見られた。学習では、答えを求めるだけでなく、「なぜそうなるのか」を考える場面を意図的に設け、思考の過程を大切にしながら根拠をもって説明する力を、今後さらに育てていく必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	【国語】文中の説明と、それが示す図を結びつける質問には、平均以上の正解があった。また、登場人物の発話の内容を問う質問も結果が良かった。児童にとって、その場面を想像できることが理解を助けるようだ。 【算数】棒グラフから美数を読み取ったり、多様な図形の中から五角形を選んだりすることが得意である。具体物の操作に慣れていると考えられる。	
思考・判断・表現	【理科】玉土の粒の大きさによって水が染み込む時間が変わる事象をしっかりと理解できていた。一方、磁石の性質について問う問題は、知識があっても正答を選ぶことができていない印象である。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	【国語】「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しくつかうことができる。」の設問において、市正答率を上回る結果となった。漢字を単独で見えるだけでなく、文脈の中で意味を捉えて使う力が育っていることを示している。【算数】「減法と除法の混同した整数の計算をすることができる。」の設問において、市平均正答率を大きく上回る結果となった。計算の仕組みを理解し、適切に減法を選択する力が身についていることを示している。【社会】「方位を理解している」「選挙権の年齢によって決められた政治の仕組みを理解している。」の設問において、市平均正答率を上回る結果となった。地理的な基礎知識と歴史的背景の理解が「プラス」よく育っている。【理科】「電気の通り道を回路ということ理解している。」「食べ物や物が細かくされたり、体に吸収されやすい状態に変えられたりする働きについて理解している。」の設問において、市平均正答率を大きく上回る結果となった。実験や観察、モデル図を用いた学習が理解を支えていると考えられる。	
思考・判断・表現	【国語】「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。」「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。」の設問のねらいについては、市平均正答率を上回る結果となった。自分の考えを論理的に組み立てる力と、相手の意図をつまみながら情報を整理する力が身についている。【算数】「問題の場面を把握し、円の半径から円周を求めることができる。」「基準量・比較量・割合の関係を捉え、比較量を求めることができる。」の設問において、市平均正答率を上回る結果となった。問題の状況を正しく読み取り、数量の関係を筋道立てて考える力が育っている。【社会】「資料から考えられること」「情報を有効に活用する」設問において、市平均正答率を上回る結果となった。資料を読み取り、そこから妥当な結論を導く力が育っている。【理科】「振り子の長さによって変わるといふ結論を導く。」「空気と光の性質について、実生活の事象を考察することができる。」の設問において、市平均正答率を上回る結果となった。実験結果をもとに規則性を見いだす力や、科学的概念を生活に結びつけて考える力が育っている。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「ドリルパーク」など、児童の意欲を引き出しやすい学習活動については、比較的良好に実施できていた。一方で、家庭の協力を得て課題に確実に取り組むことや、朝の学習タイムで学校全体で統一した活動をするには緒に就いたばかりである。ただし、普段の授業に対する児童および教員の集中力が上がっており、目の前の授業を大切にする姿勢が生まれつつある。	学校課題研究として「基礎・基本の定着」を設定した。今後は校内で研究授業を行ったり、専門部として「授業以外で基礎・基本を定着させるための方策」を考えたりして、全校を挙げて課題に取り組む。
思考・判断・表現	C	学校図書室の利用率が高まり、児童が借りる本の数が増えている。本校の豊かな緑を利用して、自然体験活動も活発であり、学びの土台ができてきた。一方、児童の関心を高められる課題設定や単元計画など、カリキュラム・マネジメントは個々の教員に委ねられている状況である。	教科担任制であることのメリットを生かし、教員が、それぞれの担当の教科で、カリキュラム・マネジメントを進める。特に、児童が自分の考えを発する機会を増やしていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)